

同志社女子大学生活科学 Vol. 53, 49～54 (2019)

《資 料》

エンターテインメントとしてのプロレス興行の興亡

——プロレス・リアル [4]——

The Ups and Downs of Professional Wrestling Performance as Entertainment :
Reality of “professional wrestling” [4]諸 井 克 英
(Katsuhide MOROI)

はじめに

今や夏の風物詩にもなった新日本プロレスによる「G1 CLIMAX」(29回目)は、〈飯伏幸太 [’82年生～]〉の優勝で終わり、「これから新日本プロレスは新しい時代に進みます。みんな一緒についてきてください」という〈飯伏〉による力強い宣言で終わる(週刊プロレス, 2019b)。最初の「G1 CLIMAX」は、新日本プロレスによって1991年に開催されたが、8選手による短期間の2ブロック・リーグ戦方式で(1991年8月7日～11日)、〈蝶野正洋 [’63年生～]〉が優勝した(ベースボール・マガジン社, 2014)。29回目となったこの大会は、20名による2ブロック・リーグ戦で行われ、2ヵ月に亘って開催された(2019年7月6日～8月12日)。とくに開幕戦は米国・DallasのAmerican Airlines Centerで開催された(観客4,846人; 新日本プロレス, 2019)。諸井・板垣(2019)は、複数のプロレス団体興行における観客数分析に基づき新日本プロレスの「一人勝ち」状況を浮き彫りにした。先の〈飯伏〉による「新しい時代」宣言は、新日本プロレスの設定目標が最早日本市場に限定された「一人勝ち」の表明ではなく、世界市場という視野の下での宣言なのだ。

〈棚橋弘至〉とDDTとの間の遺恨勃発

ところで、新日本プロレスのV字回復に大きな貢献を果たした〈棚橋弘至 [’76年生～]〉は、2015年夏の「G1 CLIMAX」(25回目)で2度目の優勝を遂げた(8月16日)。彼が最初にこの栄冠を勝ち取った2007年の大会は新日本プロレスが興行的に落ち込んでいた時期に行われ(諸井・板垣, 2019参照)、〈棚橋〉のキャラク

ターは未だファンに受容されておらず、「ブーイング時代の真ただ中」での初優勝は〈棚橋〉に「悔しさしか」残さなかった。その気持ちが優勝時の「プロレスを知ってくれてありがとう。プロレスを好きになってくれてありがとう。会場に来てくれてありがとう・・・」(週刊プロレス編集部, 2015)という言葉となり、ファンに感動を与えた。

〈棚橋〉は、「G1 CLIMAX」決勝戦の1週後にDDTによる両国国技館大会(2015年8月23日、「両国ビーターパン2015～DDTより愛をこめて～」、6,670人満員)に出場し、セミ・ファイナルでDDTのエースである〈HARASHIMA [’74年生～]〉とシングル戦を行った。19分に及ぶ激闘の末に〈棚橋〉は〈HARASHIMA〉を下すが、その直後に事件が起きた。〈棚橋〉は自ら〈HARASHIMA〉に握手を求めるもののそれに応じようとした〈HARASHIMA〉を無視した。両団体のエース対決の「ノーサイド」を意味する握手という幕切れを否定したのだ。そればかりか、バックステージ・コメントで、〈棚橋〉は次のように発言した。「オレは珍しく怒ってるよ・・・全団体を横一列で見てもらったら困る。ロープの振り方、受け身、クラッチの1個の細かいところに至るまで違うんだから・・・ハラシマ選手はこの団体のスターでしょ。スターをよりスターに、とは思ってたんですけどね」。「G1 CLIMAX」での優勝による高揚感もあるのか、〈棚橋〉には珍しく「上から目線」風のコメントを発したのだ。〈HARASHIMA〉の側は「・・・やっぱりメジャー団体のトップだけあって強かったですね・・・負けたことは悔しかったですけど、新日本のトップの人と試合をして楽しかったです」という敬意を払ったコメントで対応した(週刊プロレス編集部, 2015b)。

同志社女子大学生活科学部人間生活学科特任教授

これは、「違う団体の、ましてやトップクラス同士がシングルで闘うことの難しさ」(佐藤, 2015)を表しているといえるが、〈柵橋〉による「上から目線」風のコメントは、DDT のファンを毀損するばかりか、〈柵橋〉自身が過去のプロレスラーとは異質のキャラクターを確立することにより成功したというアイデンティティと矛盾することになる。

〈柵橋〉による「怒ってる」発言は、彼自身の真意が何であれ、エンターテインメントとしてのプロレスという観点から〈柵橋〉に対する批判を生じた。DDT が開催した両国国技館大会に新日本プロレスのエースが登場したのは、どちらが真に強いのかを競うためではない。両者は、ほぼ同年代であるとともに、エンターテインメント・プロレスの多様化を促進した「学生プロレス同好会」出身なのだ(〈柵橋〉は立命館大学、〈HARASHIMA〉は帝京大学)。今や、一方は日本のメジャー団体のエース、他方は DDT のエースとなり、ファンたちの期待は、リング上で両エースがどのように融合するかであり、真にどちらが強いのかという決着ではなかった。この観点から見ると、〈柵橋〉による「怒ってる」発言は、1 週間前に「G1 CLIMAX」の頂点に立ち、巨大化しつつある団体を背負った自分自身への気負いによって発せられたと解釈できよう。〈柵橋〉が築き上げたキャラクターそれが新日本プロレスの V 字回復への大いなる貢献となるのだが一からすると、〈HARASHIMA〉とリング上で以下に融合するかが問題となるべきなのである。「相手がジルバでくればジルバ、ワルツでくればワルツ」というエンターテインメントとしてのプロレスの鉄則を「実践し切れなかったことへのディレンマ」(ハチミツ, 2015) が彼の〈キャラクター〉と乖離する発言を惹起させてしまったのだ。異団体のエース対決後に挑発的発言があっても、通常は再戦のストーリーが仕組まれている。しかしながら、この両国国技館大会のエース対決は単発の設定であり、〈柵橋〉の挑発的発言は遺恨となるのは当然であろう。

「#大家帝国」による遺恨決着の企て

ところで、DDT は、AKB 48 によって開催されて関心を集めた「AKB 48 総選挙」(2009～2018 年；諸井, 2015 参照)を模して、「DDT ドラマティック総選挙」を 2010 年より毎秋行っていた(最初は「DDT 48 総選挙」と銘打っていたが 2014 年より名称変更、2019 年はなし／AKB 48 の場合にはファン会員や特定の CD に封入券が投票権となるが、DDT では試合会場でのグッズ購入時に投票表紙配付)。いずれもインターネット時代

を反映して、ファンだけでなく被投票者自身も SNS を活用して「選挙活動」できる。DDT では、2014 年よりユニット投票も行われ、1 位となったユニットは自由にマッチ・メイクできる興行権を獲得できる(個人投票での 1 位の選手は王座挑戦権獲得)。

先述した遺恨が勃発した両国国技館大会では、ベテラン 3 人が(〈男色ディーノ [’77 年生～]〉〈スーパー・ササダンゴ・マシン [’77 年生～；〈マッスル坂井]〉〉〈大家健 [’77 年生～]〉)「K-OD 6 人タッグ選手権」保持を保持する若手チーム(〈石井慧介 [’85 年生～]〉〈入江茂弘 [’88 年生～]〉〈高尾蒼馬 [’88 年生～]〉)に挑戦し(第 6 試合)、〈大家健〉がフォール負けをした。この試合後に〈スーパー・ササダンゴ・マシン〉は、a)「マッスル」の開催権の獲得、b) フォール負けをした〈大家〉の悔しさの払拭を旗印に、ユニット名を「#大家帝国」として「DDT ドラマティック総選挙」に立候補すると宣言し、その目的が興行権を得て「マッスル」を復活することだと説明した(週刊プロレス, 2015 c)。「マッスル」とは DDT の別ブランドとして 2004 年に〈マッスル坂井〉(本名、坂井良宏)を中心に起ち上げられ多様なプロレスを展開し人気を博したが(kamipro 編集部(編), 2008)、〈坂井〉が家業(新潟、坂井精機〈金型メーカー〉；meviy, 2018)を継ぐために 2010 年に解散した。その後、彼は、新潟大学大学院・技術経営研究科で学ぶが、プロレスへの想いを断ち切れず覆面レスラー〈スーパー・ササダンゴ・マシン〉として復活した。

しかしながら、そのセミ・ファイナルで行われた〈柵橋〉と〈HARASHIMA〉によるシングル戦で勃発した先述した遺恨は「#大家帝国」の立候補の意義を変容させることになった。元々の 2 つの理由(先の a)と b))に加えて、1 位になった時に得ることができる興行権を利用したこの遺恨への対応が c)として持ち上がったのだ。直後の試合によって立候補の意義が変容したが、DDT の歴史におけるノスタルジック的部分を超えて、「プロレスとは何なのか」への回答をファンに委託したといえよう。投票結果は、断トツで「#大家帝国」は 1 位となり(2543 票；2 位は「酒吞童子〈KUDO [年齢不明]〉〈高梨将弘 [’83 年生～]〉〈坂口征夫 [’73 年生～]〉」1643 票)、当然の如く〈スーパー・ササダンゴ・マシン〉は、「マッスルをやるのであれば、そこで今年一番モヤモヤしたことを解決しなきゃいけない」(週刊プロレス, 2015 d)と宣言した。

DDT の興行(10 月 18 日)で 11 月 17 日に開催される「#大家帝国主催興行～マッスルメイツの 2015」で

「〈HARASHIMA〉〈大家〉vs〈棚橋〉〈小松洋平 [’88年生～;’12年デビュー]」のタッグマッチを行うことが発表された。リング上で〈HARASHIMA〉は再試合を実現させてくれた〈大家〉〈男色ディーノ〉〈坂井〉およびDDTに加え、〈棚橋〉と新日本プロレスに感謝の言葉を述べた。〈大家〉は「棚橋弘至に、このオレとハラシマが、勝って・・・悔しさを・・・晴らしてみせる！・・・」と吠えた（週刊プロレス、2015 e）。

〈棚橋〉による遺恨の超克

〈坂井〉による「これから俺の仲間が絶対に負けちゃいけない闘いに挑みます。これ以上ない声援を送ってあげてください」（週刊プロレス、2015 f）というマイク・パフォーマンスとともに入場した〈HARASHIMA〉と〈大家〉には後楽園ホールを揺るがす大声援、対照的に〈棚橋〉組にはブーイングの嵐というDDTの試合としては異様な雰囲気の下で試合は開始された（1800人満員、この大会全体の模様はDVD〈DDT、2016〉で視聴できる）。17分36秒、〈HARASHIMA〉が得意の「蒼魔刀」で若手の〈小松〉を仕留め、試合終了となった。この勝利で〈HARASHIMA〉、〈HARASHIMA〉の仲間たち、そしてDDTファンの「モヤモヤ」は予想通りにある程度解消された（団体や〈棚橋〉の「格」を考えれば、〈棚橋〉自身の敗北は望めないことは自明であったからだ）。

しかし、だれもがこれで「ノーサイド」と思った直後に、DDTファンに加え、〈坂井〉以外のDDT選手が予想だになかったことが起こった。〈棚橋〉による「逸材流納め方」（週刊プロレス、2015 f）が続いたのだ。つまり、彼は、本部席に赴き、〈坂井=スーパー・ササダンゴ・マシン〉の十八番である「煽りパワポ」に倣って、パワーポイントを用いて「プロレス界をもっと盛り上げる方法」というテーマでプレゼンテーションを始めた。「煽りパワポ」では、〈スーパー・ササダンゴ・マシン〉が大学院で習得したパワーポイントを駆使して自分の試合前に試合相手の弱点などを経営用語を交え解析する。〈スーパー・ササダンゴ・マシン〉によってプロレスのエンターテインメント性が発揮される（スーパー・ササダンゴ・マシン、2016 参照）。この「煽りパワポ」の世界に〈棚橋〉自らが飛び込んだのだ。

自己紹介に始まり、今回の試合の経緯が説明された。DDTvs 新日本プロレスプロレスという枠組みでなく、松竹芸能（〈坂井〉が所属）とマセキ芸能（〈棚橋〉が当時所属；なお、2016年より新日本プロレスと大手芸能プロダクション「アミューズ」との間で業務提携）の枠

組みで行われたことに加えて、「怒ってる」発言の背景を明らかにした。〈棚橋〉が大学生の時に観戦した「〈武藤敬司 [’62年生～；当時新日本プロレス]〉vs〈高田延彦 [’62年生～；当時UWFインターナショナル]〉」（1995年10月9日、東京ドーム、67,000人満員）で感じた興奮と熱狂を〈HARASHIMA〉戦で上回ることができなかったことが「怒ってる」発言となったのであり、〈HARASHIMA〉に向けられたものではないと釈明した。続けて、驚くべきことに「ハラシマさん、ごめん。これからもDDTのエースの道を突き進んでください」（週刊プロレス、2015 f）と彼のプレゼンテーションを見つめるDDTファンと選手たち、さらには〈棚橋〉の応援に駆けつけた新日本プロレスのファンの前で、謝罪したのだ。さらに、「プロレス界全体を盛り上げていきたい！」と宣言し、次年度の4目標を提示した。a) 2016年1月東京ドームでIWGPヘビー級戴冠、b) 2016年8月「G1クライマックス」2連覇、c) 2016年9月DDT総選挙出馬、d) ユニット主催興行開催。これら4目標は達成されなかったが、とりわけc)とd)はDDTに対する敬意表現であろう。ちなみに、a)については2019年1月4日の東京ドーム大会で8度目の戴冠、b)については2018年夏の大会で3度目の優勝を果たしている。

そして、このプレゼンテーションは、「今日ここにいるすべての皆さん、愛してまーす」といういつものフレーズで締められるが、試合開始前の大ブーイングは〈棚橋〉への歓喜となった。プレゼンテーション後、〈棚橋〉は、リングに戻りロープ越しに〈HARASHIMA〉とグータッチし、退場した。〈HARASHIMA〉による「みんなが笑顔になれるプロレスをしています！」という言葉でファンたちの「満足げな笑顔」とともに大会は幕を閉



図1 DDT・リサイクルウェポンランブルデスマッチ（’19年9月1日「ディオンアリーナ第2競技場」；著者撮影）



図2 暗黒プロレス組織 666・マットプロレス
 〈19年8月31日「なんば紅鶴」；著者撮影〉

じた。

〈棚橋〉の「怒ってる」発言によって勃発した DDT との遺恨は、「100 年に 1 人の逸材」(棚橋, 2014) を自称する〈棚橋〉自身の見事な振る舞いによって超克されたのである。

おわりに

〈棚橋〉に関する有名なエピソードとして、新日本プロレスの「道場の正面に飾ってあった新日本プロレスの創始者、アントニオ猪木さんの特大パネルを外してしまった」(棚橋, 2014) ことをあげることができる(ただし、真実は別のレスラーということである)。これは、〈棚橋〉が「新日本プロレス＝ストロングスタイル＝新日本プロレス最強」という図式を否定したエピソードとして語られた。つまり、〈棚橋〉は、「お年寄りから子どもまで楽しめて、熱狂できる」「大衆娯楽」(＝エンターテインメント)としてのプロレスを目指したのだ。本稿で主題とした「怒ってる」発言は、決して彼の本意ではなかったと思われる。彼の真骨頂は、単に再戦に応じたことでなく、DDT 人気を支えている多様性の象徴である「煽りパワポ」を自ら実践し、その中でメジャー団体のエースが DDT のエースに謝罪することをやり遂げたことだ。つまり、DDT の枠組みに身を投じたのだ。しかし、このことによって、多様なプロレスを展開する DDT を〈棚橋〉ワールドに包み込んでしまった。付け加えれば、バックステージ・コメントで、今回の「絡繰り」の陰の主人公であった〈小松〉を持ち上げた。「・・・小松は俺以上のスターになるから。その時はまた DDT に呼んでください・・・」(週刊プロレス, 2015 年)。

先述したように、2019 年は新日本プロレスが世界市場に本格的に進出する年となった。春にはプロレスの聖地である Madison Square Garden (米国) で開催し大成功を収めた (2019 年 4 月 6 日, 16,534 人満員)。その後、Melbourne・Festival Hall (オーストラリア) (6 月

29 日, 1,798 人)、New South Wales 大学 (オーストラリア) (6 月 30 日, 955 人)、American Airlines Center (米国) (7 月 6 日, 4,846 人；「G1 CLIMAX」初戦) で興行を行った。さらに、「G1 CLIMAX」終了後も米国と英国で 4 大会開催した (Seattle・Temple Theater (米国) (8 月 23 日, 991 人満員) / San Francisco University・Student Life Events Center (米国) (8 月 24 日, 788 人満員) / Los Angeles・Walter Pyramid (米国) (8 月 25 日, 2512 人) / London・Copper Box (英国) (9 月 1 日, 6,119 人満員))。引き続き、9 月下旬に米国で 3 大会、11 月上旬に米国で 2 大会が予定されている。これは、2018 年に新日本プロレス社長に就任した〈Harold George Meij〉の意識が最早日本に限定されることなく「世界最大のプロレス団体・W. W. E. (World Wrestling Entertainment)」に向けられていることを示している (又吉, 2019)。

W. W. E. は、新日本プロレスの 17 倍以上の売上規模であり、米国での株式上場に際して、「プロレスはシナリオのあるエンターテインメントである」ことを公表した。この理念に従い、この団体は、リング上の戦いだけでなく、「バックステージでのやり取り」や「ドラマのような劇的な展開」が大きな魅力要素となっている (又吉, 2019)。例えば、新日本プロレスによる Madison Square Garden 大会での大成功の原因が「身体能力の高さを重視したスポーツライクなプロレス」で「多彩で大がかりな技の応酬」の展開にあるとすれば (藤原, 2019)、エンターテインメント重視路線の W. W. E. の対抗軸になり得るだろう。つまり、米国のプロレスファンは W. W. E. によるプロレスのエンターテインメント化にいったん呑み込まれた分だけ、新日本プロレスのリングが新鮮に映るのだ。新日本プロレスは、W. W. E. に習って動画配信などインターネットを最大限活用したビジネスも拡大しており、それが米国の成功にも繋がる。ちなみに、DDT も 2019 年春に米国・New York 州 La Boom で大会を開催し (「DDT is COMING TO AMERICA」, 650 人満員)、日本と同様にエンターテインメント性溢れる試合が展開された (週刊プロレス, 2019)。大会終了後、社長の〈高木三四郎 [70 年生～]〉は「・・・これが最初の第一歩、ボクの中では来年もつなげていかなきゃいけないと思ってます」 (週刊プロレス, 2019) と発言するが、新日本プロレスのような戦略性は呈示されていない。

〈棚橋〉の立場からは「ストロングスタイル」からの脱却によってわが国での「一人勝ち」状況がもたらされたのに、世界戦略に伴う W. W. E. との対立軸がエンタ

ーテインメントよりも「ストロングスタイル」的色彩にあるとすれば、再びディレンマに陥ることになる。〈HARASHIMA〉が所属する DDT は、今なお先の〈マッスル〉的要素を維持する。例えば、「大阪オクトパス 2019」大会（2019 年 9 月 1 日エディオンアリーナ第 2 競技場、678 人満員）の第 5 試合では〈高木〉と〈大家〉による「リサイクルウェポンランブルデスマッチ」が行われた。DDT の倉庫に溜め込まれた様々なもの（クーラー、扇風機、ラジカセなど）が時間差でリング内にリサイクルウェポンとして持ち込まれ、流血は決していない「狂乱」の戦いが繰り広げられた（図 1）。この「破壊から生まれた再生には懐古の思い」が込められた試合は、2020 年 6 月の「さいたまスーパーアリーナ」大会の予告とともに終わった（週刊プロレス、2019 c）。まさに DDT は「馬鹿馬鹿しさ」というスピリットを永遠に内包するのだ。さらに、東京を中心に展開しているインディーズ団体である暗黒プロレス組織 666 による大会では、リングの設営をせずにほぼ 4 m 四方のマットの上でエンターテインメント性を極限に高めた試合も行われ、人気を博している。リング上で通常目にするような技が観客の眼前で次々と繰り広げられるが（図 2）、観客が怪我をすることは決してない。ある意味で高い技術と瞬時の判断力が必要とされ、プロレスの多様性を体感できるのである。

結局、ここで主題とした〈棚橋〉と〈HARASHIMA〉の試合が引き起こした遺恨とその超克は、プロレスが孕むエンターテインメント性の奥深さを示唆しているといえよう。

引用文献

- ベースボール・マガジン社（編）2014 『日本プロレス全史』ベースボール・マガジン社
- 藤原学思 2019 プロレス ニューヨークを熱狂させるー聖地 マディソン・スクエア・ガーデンは燃えたー *AERA*, 32(21), 50-54 頁
- kamipro 編集部（編）2008 『八百長★野郎ープロレスの向こう側、マッスルー』エンターブレイン
- 又吉龍吾 2019 海外進出、そして株式上場へー新日本プロレスの復活と野望ー 週刊東洋経済, 6835, 54-57 頁
- 諸井克英 2015 『ことばの想いー音楽社会心理学への誘いー』ナカニシヤ出版
- 諸井克英・板垣美穂 2019 観客数から見たプロレス興行ープロレス・リアル [3]ー 学術研究年報（同志社女子大学）, 70, 111-119.

- 週刊プロレス編集部 2015 a 何度でも「ありがとう」週刊プロレス, No.1807, 4-9 頁
- 週刊プロレス編集部 2015 b 井の中のエース, 世界を楽しむ 週刊プロレス, No.1809, 13-15 頁
- 週刊プロレス編集部 2015 c #大家帝国はあきらめず 週刊プロレス, No.1809, 18 頁
- 週刊プロレス編集部 2015 d ユニットも個人も、それぞれの順位にドラマティックすぎるドラマあり！ 週刊プロレス, No.1816, 35-37 頁
- 週刊プロレス編集部 2015 e 正式に再戦が決定 週刊プロレス, No.1817, 103-105 頁
- 週刊プロレス編集部 2015 f 衝撃のハッピーエンドー棚橋弘至はまさかのパワポー 週刊プロレス, No.1823, 4-10 頁
- 週刊プロレス編集部 2019 a 自由の哲哉 週刊プロレス, No.2006, 9-13 頁
- 週刊プロレス編集部 2019 b 見果てぬ自由ー飯伏が選択した、背負うことから逃げないという生き方ー 週刊プロレス, No.2025, 4-10 頁
- 週刊プロレス編集部 2019 c 10 年越しの「T」 週刊プロレス, No.2029, 102 頁
- 佐藤正行 2015 DDT 両国夏物語 週刊プロレス, No.1809, 40-41 頁
- 棚橋弘至 2014 『棚橋弘至はなぜ新日本プロレスを変えることができたのか』飛鳥新社
- ハチミツ二郎 2015 続・ハチミツ二郎のプロレスばっかり見てたら芸人になっちゃいましたー棚橋弘至はなぜ怒ったのか？！ー 週刊プロレス, No.1810, 48-491 頁
- 〔DVD 資料〕
- スーパー・ササダンゴ・マシン 2016 『スーパー・ササダンゴ・マシンによるコミュ障サラリーマンのためのプレゼン講座』ポニー・キャニオン PCBC-11194
- DDT 2016 『#大家帝国主催興行 マッスルメイツの 2015』DDT プロレスリング SKI-088
- 〔インターネット・サイト〕
- meviy 2018 金型の生産性とプロレスの熱狂は真逆だースーパー・ササダンゴ・マシンが考える、金型業界のこれからー <https://meviy.misumi-ec.com/ja-jp/blog/archives/7103/>
- 新日本プロレス 2019 HEIWA Presents G1 CLIMAX [\[29 https://www.njpw.co.jp/tournament/192617?show-Result=1\]](https://www.njpw.co.jp/tournament/192617?show-Result=1)

同志社女子大学生活科学 Vol. 53 (2019)

(2019 年10月 1 日受理)
(2019 年11月 5 日採択)